

プレーパーク（冒険遊び場）について

冒険遊び場とは1943年にデンマークで生まれま
した。大人が用意した遊びのプログラムや既成の
遊具ではなく、子ども自身の「やってみたい！」
気持ちを大切に、子どもの手でつくりかえること
ができる遊び場です。日本では1970年代に始ま
り全国で450団体以上に広がっています。

※冒険遊び場／プレイパーク／プレーパークなど地域によってまちまちです。

冒険遊び場の定義

冒険遊び場は、すべての子どもが自由に遊ぶことを保障する場所であり、子どもは遊ぶことで自ら育つという認識のもと、子どもと地域と共につくり続けていく、屋外の遊び場である。

2021年3月

特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会

すべての子どもが自由に遊ぶことを保障する
→遊びに来ても良い子どもを選びません。
誰でも、無料で、申し込みせずに遊べます。



子どもは遊ぶことで自ら育つ

→子どもは遊ぶことで「自分」をかたちづくり、
人生を手づくりできるようになります。



子どもと地域と共に作り続けていく
→常につくりかえることができ、
開かれた参加型の遊び場づくりをしています。



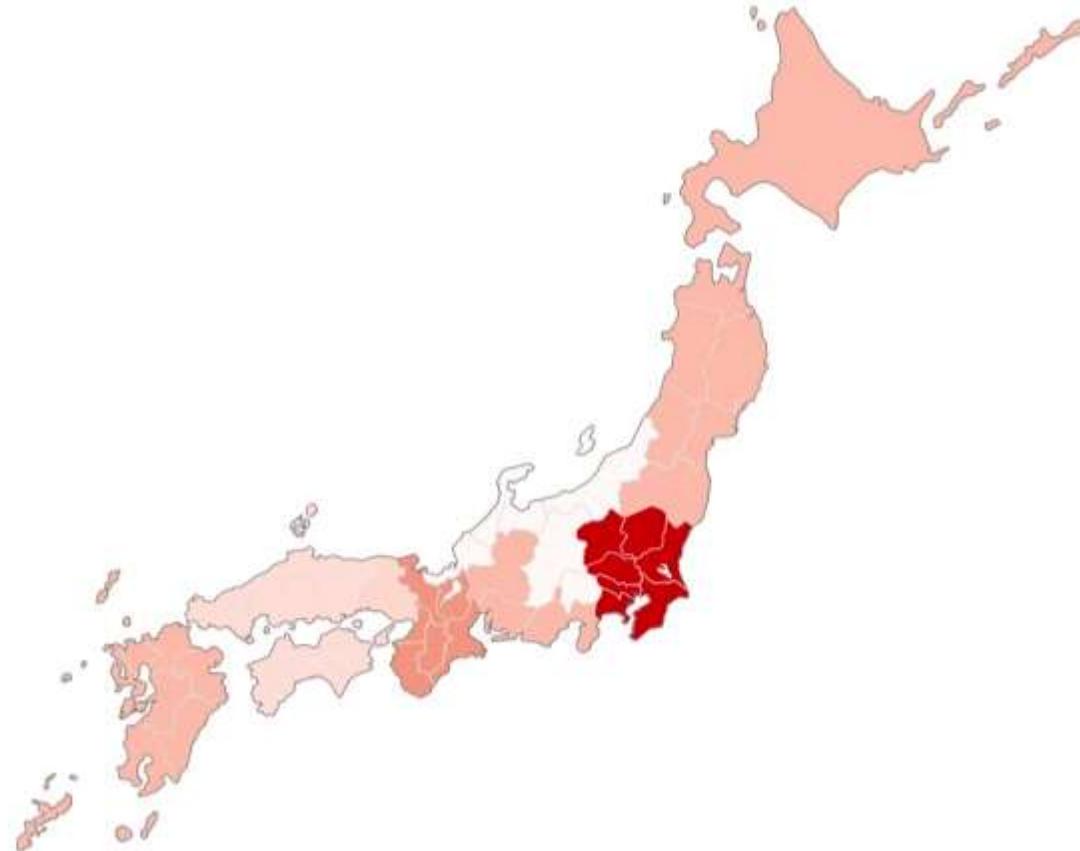
屋外の遊び場

→自然素材は子どもがカタチをかえやすい物が多く、
屋外環境は子どもへの刺激が常にあります。



団体所在地の分布

エリア	割合 (件数)
関東	50.2% (125件)
関西	12.4% (31件)
東海	8.0% (20件)
九州・沖縄	7.6% (19件)
北海道	7.2% (18件)
東北	6.8% (17件)
中国・四国	5.2% (13件)
北陸・甲信越	2.4% (6件)

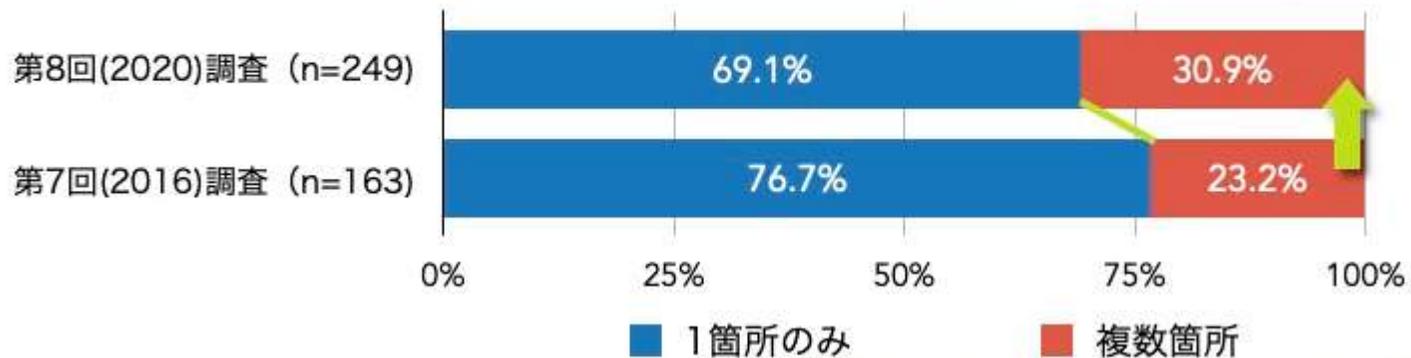


第8回冒険遊び場づくり活動団体活動実態調査（2020）データより

実施箇所数

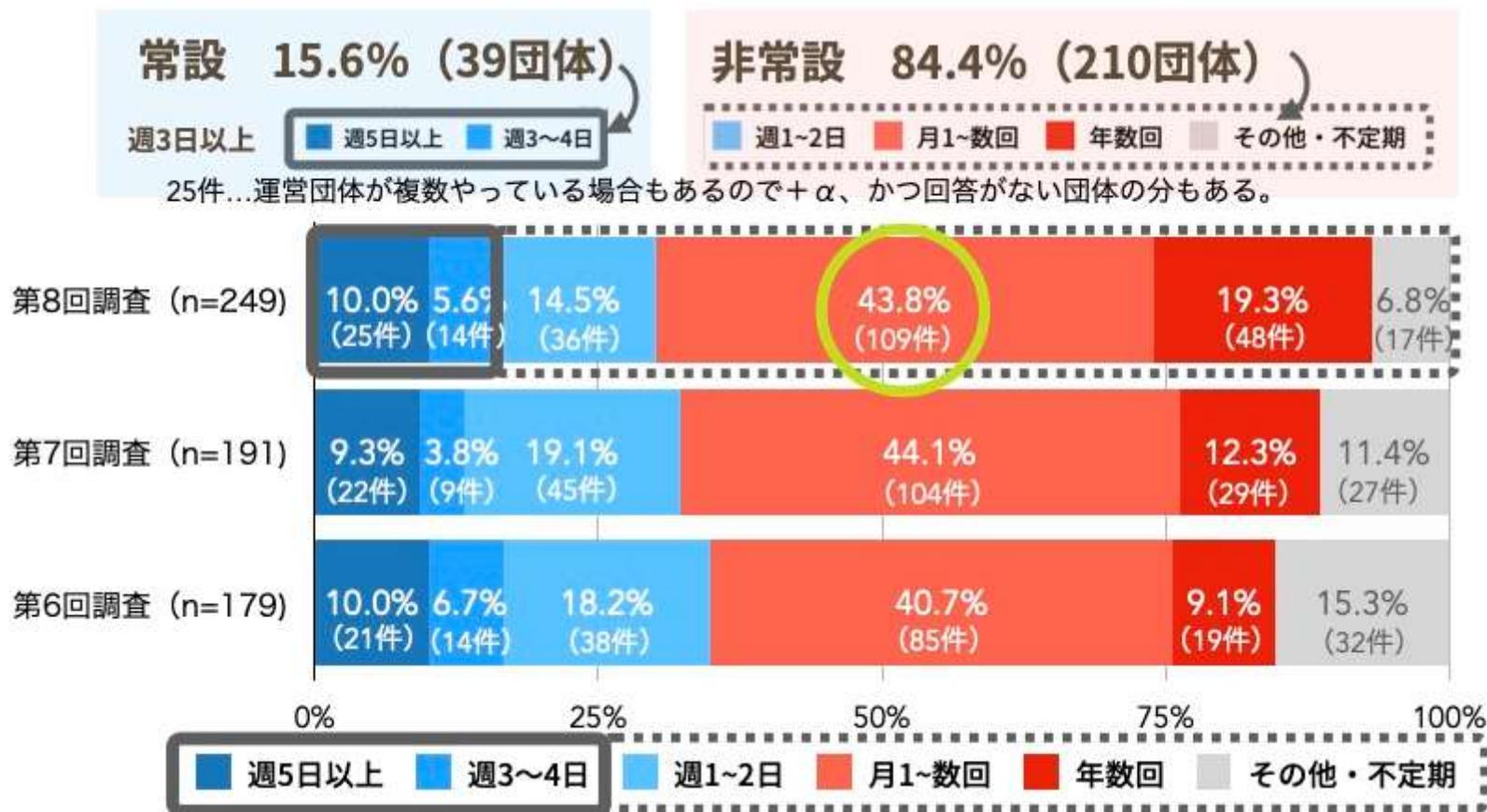
活動箇所数	第8回調査(2020)		第7回調査(2016)	
	249団体	箇所数	163団体	箇所数
1箇所	172	172	125	125
2箇所	49	98	24	48
3箇所	17	51	8	24
4箇所	3	12	2	8
5箇所	2	10	1	5
6箇所	2	12	0	0
8箇所	2	16	1	8
9箇所	0	0	2	18
11箇所	1	11	0	0
14箇所	1	14	0	0
合計	249	396箇所	163	236箇所

複数箇所の遊び場を実施する団体が増加



第8回冒険遊び場づくり活動団体活動実態調査（2020）データより

開催頻度



第8回冒険遊び場づくり活動団体活動実態調査（2020）データより

冒険遊び場の位置づけ

法的根拠がなく独自の展開方法であるため、予算の支出根拠の種類が自治体によって様々

- ◆ 教育関連部署：青少年健全育成事業・居場所づくり
- ◆ 児童福祉関連部署：子育て支援事業・子どもの遊び場確保
- ◆ 公園・緑地関連部署：公園の整備・公園の有効利用
- ◆ 関連部署混成：子ども施設や地域づくりの総合的な推進

【推移】

1998年：57団体
2001年：110団体
2004年：192団体
2008年：230団体
2012年：311団体
2016年：416団体
2020年：458団体